

Patrick Pouyanné  
(パトリック・プイヤネ)  
Chairman & CEO, Total SE

皆様、本日はお時間を頂き、エネルギー転換期におけるガスの重要な役割についてのいくつかの見解をお話しさせて頂けることを光栄に思います。この機会を与えてくださった経済産業省に感謝いたします。

最近トタルは、国際社会と共に 2050 年までにネットゼロを実現するという野心的な計画を明らかにしました。天然ガスの開発はこの目標を達成するための鍵となります。なぜならば、天然ガスは経済的に許容可能 (affordable) な有益なエネルギー源であり、よりクリーンに石炭を代替でき、発電においては再生可能エネルギーの断続性 (intermittency) を補完することができるからです。

今日の非常に特殊な状況と困難な COVID の時代に、本日この場で皆様にお話しできることを嬉しく思います。と申しますのも、トタルは日本との長い歴史を持っているからです。私たちは、ガステック国際会議が 2017 年に東京で開催された際に、トタルの日本での活動の 60 周年をお祝いさせて頂きました。今日まで 60 年以上の長きにわたって、特にガスの分野と世界にまたがる LNG バリューチェーンにおいて、そして最近では再生可能エネルギーと発電の分野で、日本のプレーヤーの皆さまと強固なパートナーシップを築いてきました。

LNG に関しては、トタルは日本のパートナーの皆様と協力していくつかの主要な液化プロジェクトに参画しています。国際石油開発帝石とはオーストラリアのイクシス LNG で、三井物産とは米国のキャメロン LNG、ロシアの Arctic LNG-2 やモザンビークなどで、三菱商事とはキャメロン LNG で、そして JOGMEC とは Arctic LNG-2 でご一緒させて頂いています。

また、私たちのマーケティングとトレーディングの活動によって、日本における主要な LNG サプライヤーとなっていることを誇りに思っています。2019 年には日本向けに約 400 万トンを供給しました。これは、日本市場の 5% にあたり、トタルの全世界での LNG 取引量の 10% に相当します。関西電力、東北電力、国際石油開発帝石、中国電力、丸紅などの主要なお客様との長期契約とスポット取引のおかげです。

再生可能エネルギーと発電に関しては、トタルは日本でこれまでに 100 メガワットの発電能力を開発しています。52 メガワットの「宮城大郷ソーラーパーク」はトタルの日本での太陽光発電の主力事業であり、トタルにとっては日本国内で 3 番目のプロジェクトで最大の規模をもつ太陽光発電所です。また、日本のプレーヤーと一緒に、海外でも太陽光発電事業の開発を行っています。最近の例では、丸紅と一緒にカタールで開発している 800 メガワットの非常に大規模な発電所が挙げられます。世界で最も競争力のある太陽光発電事業の一つであるこのプロジェクトを実現するために、私たちの専門知識と技術的ノウハウをつぎ込んでいます。

トタルは、「増大する需要を満たすために安定して経済的にエネルギーを供給しつつ、気候問題に対処するために炭素排出量を削減する」というこの業界の大きな使命は、国際社会と共にあることを達成されると確信しています。この点で、2030年までに低効率石炭火力発電所の段階的廃止を求めるという経済産業省の梶山大臣による最近の発表は、電源ミックスをよりクリーンなエネルギーに適応させるという日本の野心を裏付けていると言えます。2030年までに100基以上の非効率な石炭火力発電所を閉鎖すると、失われる発電の一部を置き換えるための天然ガス需要が増え、2030年までに低炭素発電が70%以上を占めるまでになります。このことは日本のLNG需要の増加につながります。日本は2019年に7700万トンを入力した世界最大のLNG輸入国であり、業界のパイオニアとして認められています。LNGは今日の日本の発電構成の35%を占めています。

天然ガスの推進は、世界レベルでも観察されています。天然ガスの需要は、2030年まで年率1.5%で増加し続けると予測しています。天然ガスは、温室効果ガスの排出を効率的に抑制するための鍵であるため、天然ガスの需要は引き続き増加します。

第一の理由として、発電だけでなく、産業用および熱利用においても石炭がガスに切り替わるためです。石炭は依然として世界の一次エネルギー供給の27%を占めています。天然ガスの温室効果ガス排出量は石炭よりも50%少なく、また天然ガスは二酸化硫黄、窒素酸化物、およびいくつかの粒子物質も排出しないため、石炭から天然ガスに切り替えることにより大気環境も改善されます。

石炭をガスに切り替えることの利点は、ヨーロッパで既に観察されています。過去10年間で、火力発電におけるガスのシェアは50%未満から70%以上に増加し、石炭のシェアは50%から30%未満に減少しました。アジアでも石炭からガスへの大規模な切り替えが既に始まっています。中国では、天然ガス需要とLNG輸入の力強い成長が見られます。インドでは、石炭が依然としてエネルギーミックスの44%を占めていますが、インド政府はガスと再生可能エネルギーの促進に取り組んでいます。韓国でも、政府が稼働中の石炭ベースの施設の半分をLNG火力発電所に転換することを計画しています。

第二の理由として、成長する再生可能エネルギーを補完するのに役立つということです。ガス発電は再生可能エネルギーの断続性に対処する柔軟性を提供することができるため、天然ガスは再生可能エネルギーの完璧なパートナーと言えます。ヨーロッパでは、天然ガスによって電力需要と風力および太陽光からの発電量との間のギャップを埋めることに成功した例としてスペインが挙げられます。昨年の発電における風力発電のシェアは、8月の13%から11月の33%に振れましたが、ガス発電のシェアは逆の方向に振れ、8月の33%から11月には18%になりました。

この相補性を無視すると、電力システムにストレスがかかる可能性があります。それがまさに最近起こったことです。今年の夏、再生可能エネルギーの不均衡な供給のために、カリフォルニアでは停電に見舞われました。ガス発電が利用できない場合、電力システムに障害が発生する可能性があります。

ガス需要のこの全体的な成長をサポートするために、LNG は益々重要な役割を果たし続けます。世界の LNG 需要は 2015 年から 2019 年の間に年率 10% で成長し、今後の 10 年間でも少なくとも年率 5% の成長を維持する必要があります。

これらの動きと平行して、LNG は、より成熟した市場とコモディティ化へ向けて進化し続けます。それは、過去 3 年間に起こった過剰投資、過剰供給、価格低下のサイクルを長引かせ、そして今日よく知られているように、今後は投資不足、需給バランスのタイト化、価格上昇が予想されます。このような成り行きは、バリューチェーン全体の全ての業界に影響を与えます。一方では、液化プロジェクトの開発者は、投資をサポートするために長期契約だけに頼ることができなくなり、より多くのリスクを負う必要があります。他方では、バイヤーは、供給の柔軟性の向上、短期契約、ハイブリッド価格フォーミュラ、地理的な市場の相関性が薄れていく中での新しいインデックスに依拠することなどを期待しています。このような、より成熟した、よりコモディティ化された LNG 市場では、サプライヤーとバイヤーは、市場サイクル、そして、より大きな市場ボラティリティ、より多くの不確実性、そして最終的にはより大きな複雑性を乗り越えていく必要があります、その強みを発揮できるトタルのようなポートフォリオプレーヤーに競争上の優位性をもたらします。

トタルの優位性は、第一に、大規模で競争力のある LNG プロジェクトを開発し、世界規模の競争力のある LNG ポートフォリオを構築することができる独自の能力です。トタルの強力なバランスシート、プロジェクト管理能力、および長年にわたる強固なパートナーシップを確立してきた歴史を活用して、トタルは引き続き大規模な LNG プロジェクトの開発に取り組み、世界第 2 位の LNG ポートフォリオプレーヤーとしての地位を強化します。

第二の優位性は、LNG のバリューチェーン全体に沿った統合を図っていることです。トタルはバリューチェーン全体で成長を続け、2020 年で 4000 万トンの LNG ポートフォリオ取扱量は 2025 年までに 5000 万トンに達し、増加分の 90% はトタルが自ら参画するプロジェクトの合弁会社から、残りは第三者から購入されます。

LNG ポートフォリオを最適化するために、ヨーロッパで最大の LNG 受入基地気化契約のポートフォリオを持ち、長期および短期の用船契約による LNG 船の大規模で多様なポートフォリオを組み合わせています。この最適化された LNG 船団により、お客様へのデリバリーを万全なものにすることができます。輸送分野で、日本郵船や商船三井などの海運業界のリーダーである日本の主要プレーヤーと強固な関係を築いていることを強調したいと思います。日本郵船が保有し、現在建設中の 3 隻の新造 LNG 船が、2021 年から 2022 年にかけて当社の船団に加わります。CMA CGM 社との契約に専従する新造の LNG バンカリング船は商船三井が保有しています。

バリューチェーン全体に沿って統合を図ることは、主要な成長分野に賭けることができるということです。それは私たちがインドにおいてパートナーであるアダニ社と共に実行していることです。私たちは継続的に新しい国々、特に東南アジアやアフリカの国々に目を向けています。そこでは、ガス火力発電（gas to power）プロジェクトの開発に伴って安定して供給されるガスへの需要に応えるための LNG 輸入が重要となります。

バリューチェーンの下流分野では、日本のプレーヤーによって最近発表されたミャンマーやベトナムでのプロジェクトの例があり、下流分野への投資によって潜在的な LNG 需要を解き放つ可能性がある新規事業開発活動においても、新しい実りあるパートナーシップを築く余地があることを示しています。

新しい市場を解き放つことは、バンカリング用の LNG などの新しい用途を開発することも意味します。私たちは間もなく年間最大 60 万トンの LNG を CMA CGM 社に供給します。LNG 燃料は、温室効果ガス排出量を削減し大気環境を改善するためにガスがいかに有効かを示す新しい一例であり、2016 年に設立合意された日本海運会社のコンテナ船事業合併会社である ONE 社もこの動きに参加して、コンテナ船業界を変革されていくことを望んでいます。

第三の優位性は、トタルが持つ世界クラスのトレーディングの専門知識です。日本の LNG プレーヤーは、LNG 取引の柔軟性と透明性を高めるために、最近非常に活発に活動しています。トタルは、FOB 契約の仕向地条項の廃止を完全にサポートします。

また、日本のパートナーと協力して、LNG 船団のプーリング・メカニズムを通じて LNG 輸送を最適化する方法についても取り組んでいます。

2019 年の LNG 取引の 25% を占めた JKM インデックスの発展にも寄与しました。

当社のトレーディングの専門知識により、市場ボラティリティが発生した時、あるいは市場サイクルの下方局面で価格が下落傾向にある場合でも、私たちはより堅固な健全性を保ち、競争力のある LNG をお客様に提供し続けることができます。

第四の、そして最後に重要なことは、お客様との真に緊密な関係です。これにより、トタルは変化のお客様の期待に適応し、対応することができます。例えば、私たちは今年 EEX 日本電力先物市場に登録しました。これによって日本の電力会社に寄り添い、下流市場に連動した価格にもアクセスできるようになりました。

また、最近では、一部のお客様からの要望もあり、カーボンニュートラル LNG カーゴの販売を目指していくつかの取り組みを行っています。カーボンニュートラル LNG カーゴを CNOOC に初めて販売したことで、LNG からの炭素排出を中立化できることを実証しました。

低炭素エネルギーを供給しお客様が気候変動を緩和できるように支援することは、私たちの目標の中核です。LNG の炭素強度を下げるために、LNG が燃焼する前の段階の排出量を削減するためのいくつかの取り組みを始めています。生産段階と液化段階では、プラントの設計、プロセス、運用の改善に取り組んでいます。需要地での LNG 消費で発生する排出量をお客様が相殺できるように、CO2 排出を回避し、削減し、隔離するプロジェクトに由来する カーボンオフセット・ソリューションを開発しています。

天然ガスに由来する CO2 排出量に対する行動に加えて、トタルは メタンの排出量を削減するためのいくつかの枠組みにも参加し、ガスの事業者として主要なメンバーとなっています。メタンは CO2 よりも地球温暖化へ大きな影響を及ぼし、現在の地球温暖化の原因の 4 分の 1 を占めると考えられているからです。

トタルは、生産および施設でのメタン排出量をゼロにすることを約束しています。これまでのところ、2010 年の排出量から 45%削減することができました。私たちの目標は、業界でも最も低い水準の私たちの排出量を更に削減するだけでなく、業界全体にベストプラクティスを広めることです。私たちはいくつかのパートナーシップに参加しており、最近では石油・ガス業界の枠組みである OGMP (Oil & Gas Methane Partnership) に参加しています。そこでは、自ら操業していないために直接手段を講じられないメタン排出資産をも網羅するレポーティングの基準を策定することを目的としています。これは、私たちのパートナーとベストプラクティスを共有できるようにするための極めて重要なステップです。

まとめますと、トタルは世界第 2 位の LNG ポートフォリオプレーヤーとして、信頼性、供給の安定性、競争力のある LNG、および炭素強度の低減を同時にお客様に提供することができます。

私たちにとっての LNG の開発は、責任あるエネルギー・メジャーとなり、経済的で信頼性の高い、クリーンなエネルギーを提供するというグローバルなコミットメントの一環です。天然ガス、電力、炭素吸収を含めた幅広い分野にわたる総合エネルギー企業にトタルを変革するという私たちの野心は、ネットゼロのカーボンニュートラルにコミットしつつ、増大するエネルギー需要の課題に対処することを可能にします。私たちは、国際社会と共に、そして私たちのパートナーやお客様と共に、これを実現します。

この挑戦に満ちた道程に、私の長年の日本のパートナーの皆様を頼りにすることができると深く確信しております。そして私たちの戦略を実行する上で、日本が非常に重要な国であり、今後長きにわたって重要な国であり続けることを再度申し上げ、私の発言を締めくくりたいと思います。

(了)